

学校だより

大津市立葛川小中学校

平成27年6月号

思い出の修学旅行

生徒3人、引率3人の家族旅行を思い浮かべそうな修学旅行。九州方面へ2泊3日(5月27～29日)で行ってきました。初日は、長崎を訪れ、原爆投下により町が一瞬に焦土化し、多くの尊い人命が失われ、今なお原爆の後遺症で苦しんでいる人がいる現実を現地で



でしっかり学びました。夜は、稲佐山山頂展望台より、東洋の三大夜景を目に焼き付けました。2日目は、今、世界遺産の登録候補としてあがっている、日本の近代化を支

えたと言われる軍艦島(海底炭鉱)を見学しました。訪れた生徒は、こんな小さな島に学校もあり、鉄筋づくりの団地が連なり、テレビをはじめいろいろな設備があったことにとっても驚きを感じたようです。そして、3日目はスペースワールドで、十分楽しんで帰ってきました。とっても中身の濃い2泊3日でした。

ふるさと体験

「絆・郷・学」

中学1年生は、葛川少年自然の家で2泊3日の「ふるさと体験学習」を行いました。(6月1日～3日)今年が目新しい活動として、「KTふれ合いの輪」で作成した防災マップを使って、水害の危険箇所を現地調査したことです。



葛川の貫井→梅ノ木→町居→坊村までの区間を、地域の防災士さんと一緒に歩きながら、葛川の地形や危険箇所の確認、大雨の時の災害状況について説明を受けました。また、災害時の避難場所に指定されている各自治会館を訪れ、町内の人から歴史的な災害の話も含め、近年の災害状況や防災対策についてくわしく説明していただきました。参加した生徒から「とてもためになる話ばかりで、みんなにも是非教えてあげたい。」という感想を聞きました。協力して作った学級旗には「絆・郷・学」の漢字3字が描かれてい

て、今回の体験でめざすことが明示されていて意欲を



感じました。プログラムのいくつかについては、伊香立中学校の生徒と合同で行い、交流を深めると共に、より大きい集団での立ち振る舞いについても学ぶことができました。

今年も学校林活動始動

今年で5年目となる学校林活動。アシビ谷まで徒歩で約1時間。年3回の活動を行っていますが、今回は雪解けの春先に鹿などに被害を受けた木の保護を中心に行いました。小3～中3までがグループになって、写真のような「ヘキサチューブ」という鉛筆型の筒を木にかぶせました。全部で40本近い木に設置しました。なかなかの重労働であったようです。半透明で保温効果もあり、木の生長もよくなるだろうとお墨付き。木にとっては、とても窮屈そうに見えますが、鹿などから木を守るために、現在このような方法が他の地域でも活用されているようです。一つ心配なのは、葛川は雪が多いために、大雪が降ったときにヘキサチューブが倒れずにいられるかということです。小12年生は、2mくらいある山桜の苗木を3本、森林組合の方々の指導の下、植えることができました。次回山を訪れたとき、その成長ぶりが楽しみだという思いを胸に、下山しました。



台湾児童との交流

毎日新聞にも掲載されたので、ご存じの方も多いかと思いますが、6月4日に台湾児童(5年)8名が本校を訪問してくれました。保護者の知り合いの方からの協力依頼を受け、今回の交流が実現しました。日本語や日本の生活文化に高い関心を持ち、日本語は小学1年生の時から週に2～3時間程度学習してきました。1時間目の交流会で披露してくれた「コント」は、とても上手で腹を抱えて笑いました。授業体験では、書写、体育、音楽を行い、給食を一緒に食べ、午後からはプール掃除を手伝ってもらいました。ちなみに、台湾の小学校では、プールのある学校は少なく、近くの学校のプールを共同で使っているようです。子どもたちは、一日一緒に活動する中で、言葉や文化の違いを越え心が通じ会えたという貴重な経験を積むことができたようです。

